

令和元年度
第1回西脇市総合教育会議
議事録

令和元年7月23日

西脇市教育委員会

西脇市総合教育会議議事録

1 開催日時

令和元年7月23日（火）午後1時15分～午後2時50分

2 開催場所

西脇市生涯学習まちづくりセンター 会議室1

3 出席者

(1) 市長及び教育委員会

市長	片山象三	教育長	笹倉邦好
教育委員	藤原久和	教育委員	内橋和彦
教育委員	岩本理香	教育委員	依藤三枝子

(2) 事務局

都市経営部長	筒井研策
教育部長	森脇達也
教育委員会参事	遠藤一博
教育総務課長	鈴木成幸
学校教育課長	永井寿幸
学校教育課主幹兼教育研究室長	岸本正昭
幼保連携課長	大隅誠一
人権教育課長	柳川瀬輝彦

4 傍聴者

6名

5 会議の概要

(1) 市長あいさつ

(2) 協議・調整事項

ア 西脇市学校学習環境規模の適正化に係る状況報告

イ 通学路の安全確保に係る対応について

(3) その他

○事務局

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今から、令和元年度第1回西脇市総合教育会議を開会いたします。

それでは、開会に当たりまして市長からごあいさつをいただきます。市長、よろしく願いいたします。

◎市長

皆さんこんにちは。

総合教育会議の開会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

平素は、教育委員の皆様方には、本市教育行政の推進に格別のご支援、ご尽力を賜り、心から感謝を申し上げます。

さて、国では、現在、「SOCIETY 5.0」を柱とする「骨太の方針」が示されております。

「SOCIETY 5.0」とは、「仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、新たな未来社会を目指すものと定義づけられております。今後、AIなどの科学技術がますます進展していく中で、それらを創り出し発展させるのは「人」であります。また、科学技術を活用しながら新たな社会を創り出すのも「人」であり、このようなことから、いかに「人材育成」を行っていくべきかが重要であると考えております。

本市では、今年度、第2次西脇市総合計画と第3次西脇市教育振興基本計画の初年度ということであり、新たな時代に向かって様々な教育政策を展開していく節目の年度であります。

本日の総合教育会議では、未来を担う子どもたちを育成する環境に関する重要な内容で、1つ目に「西脇市学校学習環境規模の適正化に係る状況報告」として、「学校学習環境規模の適正化推進の必要性」と「西脇市学校学習環境規模の適正化推進スケジュール等」、2つ目に「通学路の安全確保に係る対応について」協議をお願いしたいと思っております。委員の皆様方の忌憚のないご意見を賜り、活発な議論ができればと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

この後、議事に移らせていただきますが、会議の議長につきましては「西脇市総合教育会議運営要綱」に基づきまして、市長をお願いしたいと思います。

市長、よろしく願いします。

◎市長

それでは、まず、議事録署名委員につきまして、私から指名をさせていただきます。藤原委員、依藤委員、両氏にお願いします。議事録の署名をもって「運営要綱」第5項第2号の会議録の承認とみなしますのでよろしくお願いいたします。

◎市長

引き続き、お手元の次第に従いまして進めさせていただきます。

初めに、次第2の協議・調整事項(1)、「西脇市学校学習環境規模の適正化に係る状況報告」、「ア 学校学習環境規模の適正化推進の必要性」について事務局から説明させていただきます。

担当課長から説明をお願いします。

————— [説 明…記述省略] —————

◎市長

説明が終わりました。この会議は、教育委員会と市長部局の意見交換によって、西脇市の教育のベクトルを同じにすることが大事な役割の一つです。また、私の基本的な考え方は、このような時代の流れの中で、児童生徒にとっても市の財政にとっても、今の学校数をそのまま維持していくのは非常に難しいだろう、というのが私の基本的な考え方です。

そのような中で教育委員さんがどのようなお考えをお持ちか、今の事務局からの資料説明の中で思われたこともあると思います。委員さん方から、ご意見、ご質問はございませんか。

○委員

どれぐらいの数になると、運営出来ないぐらいになるのでしょうか。例えば学校訪問に行かせていただいても、芳田小学校では1クラス18人の規模でも授業もとてもいい雰囲気ですし、学校づくりやクラスづくりもすごく進んで、学力向上にも繋がっているとお聞きしています。そのように小さな学校でもすごくメリットがあっという感じで伸びている学校もあるので、もったいないなという思いもあります。どのぐらいの人数になればいいのかということがよくわかりません。

○事務局

現在の西脇市の学校現場におきましても、学年1学級が多くあります。そして、その1学級の構成人数が30人台の学級もあれば、10人台になっている学級もあります。先程説明のありました、資料の別紙1をもう一度ご確認いただきたいのですが、現在、小学校で言いますと、小学1年生の6歳児の人数が出ており、すでに1桁になっている学校もございいますが、これから6年後、今の0歳児が小学校1年生になる段階にお

いて、1学級が1桁になるという学校数が、現在の予想では、比延小学校、双葉小学校、芳田小学校、桜丘小学校の今生まれている子どもの数が表のとおりとなりますので、この年度の新入生は1桁で、これは現在の双葉小学校に少し多い程度の人数ですが、もし、今後このような人数が連続して毎年1年生が1桁の人数で入学しますと、これは極端なことを言いますと、複式学級を危惧しなければいけない可能性もゼロではないということになります。そうしますと、そういうことが起こす教育の質の低下が、先程の資料で文部科学省も示していますが、どのぐらいの人数が効果的なのかということとは、今後、いろんな協議にご意見やご判断をいただくことになると思います。自治体の中では、学年の人数なども基準の中に入れ込もうとするところもあります。単なる学級数だけではなくて、学級数がたとえ1学級でも何名以上であれば維持する方向を検討するとか、それはダメであるとかを検討している自治体もあるようです。

◎市長

今から考えていかなければならない非常にいい問題提起をしていただきました。

○委員

いろんなお話しや資料を拝見させていただいて、生徒の数が減ることによるデメリットと言いますと、先程から言われているように、教育の質の低下、学校、学級運営の困難さ、児童生徒の人格形成、教員数の減少、財政面と、今後困難な面が多々発生するということは間違いないことだと思います。やはり、ここで一番重視しないといけないことは、先程も事務局が言われたようにどんな子どもを作るか、それは社会の変化に対応できる人材の育成と言われていました。やはり人格形成は多様な考え方から生まれると思います。やはり少ないよりは適正な数があるほうがいろんな考え方を吸収出来るし、また、自分の考えも成長出来るのではないかと思います。ただ、子どもたちには、いろんな人に出会っていただいて友情等を育てていただいて、人格形成を育てていけたらと思います。

◎市長

ありがとうございます。そのようなご意見をいただき、今後理解を深めていけたらと思います。

○委員

学校規模適正化については、学校訪問のときに部長が毎回、今年度の検討事項について話されています。資料をみても、教育の質の低下や学

校運営の困難さ、児童生徒数が減ることによる教員の減少等が挙げられていて、そういう事から考えるとやはり学校の適正規模配置を考えていく必要があると思います。でも、学校はどこも地域の核として、とても地域との繋がりが深いので、地域住民の十分な理解が必要であり、丁寧な説明に時間を割いていくことが大切であると思いました。

○委員

私たちのときは、西脇小学校は県内でも有数のマンモス校で約1,500人児童がいて西脇中学校も8クラスや9クラスとかあった時代で、それが今では2クラスや3クラスになってしまい寂しいと感じます。社会の流れ、情勢で少子高齢化の時代ですが、児童生徒数が少なくなることで、人格形成などは別の話ではないかと思います。例えばこの間、しばざくら幼稚園に行かせていただいたときに 砂場の中でみんなで工夫し協力し合って、砂山からどうやって水を流そうかと皆で考えていて、そういう体験が人格形成になったりすると思います。また、地域や家庭の教育力について、今の私も含めてですが、興味のあることに関しては子どもと一緒にやるのですが、勉強や学校のこと、学校の先生のことを知ろうということになると、なかなか興味がなくて子どもと一緒にやらなかったりします。そこを学校ももっとオープンにする必要があると思いますし、親ももっと知ろうとする前向きな姿勢が必要で、それを地域全体で考えてから、そこで初めて学校の統廃合とか再編というのを積み上げていかないと、先程も話しがあったように地区によっては学校についてとても熱心にされているところもあります。私たちの時は1学年約300人いたので、同窓会と言っても同じ学年だったかどうかわからない人もいます。ただ、その当時の西脇東中学校は、生徒数が少ないので皆兄弟みたいに助け合って仲良くて、小学校、中学校とそのまま上がっていくので団結力もあって、高校に行っても横の繋がりがすごくありました。グローバルというのは漠然としていて今すごく流行っていますが、ローカルはどうなるのかと考えると、グローバルばかり追いつけることによってローカルことは置き去りになったりと、今、西脇市に子どもが少なくなった現実をなぜ少なくなったのか、なぜ若者が帰ってこないのか等いろんなことを多面的に見ながらやっていかないと、一長一短ですぐにというのは難しいですし、社会の流れ、環境、自分たちが置かれている立場を深く理解して、その中で組み立てていかないとなかなか難しいと思います。ただ、今、先生方が見られている現状は、少なくとも生徒が多い学校でもやることは同じで、やはり先生方の人数によっても労働力の負担のかけ方は違うと思うので、教える立場の先生方が疲れて

しまっではいけないので、その辺はしっかり考えていかないといけないし、家庭と地域を巻き込むというのが大事なのでないかと思います。

◎市長

いろんなご意見をいただきありがとうございます。それでは、次に次第2の協議・調整事項(1)、「西脇市学校学習環境規模の適正化に係る状況報告」、「イ 西脇市学校学習環境規模の適正化推進スケジュール等」について事務局から説明させていただきます。

担当課長から説明をお願いします。

————— [説 明…記述省略] —————

◎市長

説明が終わりました。スケジュールの中で、姫路市、京都府、福井県の視察がありますが、これはどのようなメンバーで行くのでしょうか。

○事務局

今のところ教育委員会事務局内で関係がある課の職員が行く予定にしております。

◎市長

教育委員さんが参加してみたいと言われたら行くことは可能ですか。

○事務局

はい、日程が合えば参加していただいて結構です。

◎市長

資料説明がありましたが、協議・調整事項のアとイあわせて何かご意見、ご質問はございませんか。

○教育長

事務局からいろいろ説明をさせていただきましたが、基にあるのは、実際、西脇市がこれからどのようなまちになっていくのかというところからスタートしていますので、これから新庁舎が建設され、10年後、20年後、30年後、40年後を想定しながらまちが構成されると思います。そこには必ず学校がありますから、そこに生活する将来大人になる子どもたちにどんな教育を保障するか、ということが喫緊の課題です。今後10年間を見ましても、資料別紙1の表のとおり、現在の子どもの数は3,087人で、それから6年経つと約400人は減少するということです。現在の給食数も過去10年前と今年を比べますと、4千数百食あったのが、今は3千食少しなので約1,000食減っており、これは、子どもたちが約1,000人減っているということになります。子どもの数が1年に100人ずつ減るような現象をどう見るかということなのです。現在ゼロ歳児が240人ですが、2、3年前は300人切るか切らないかという話しをしていたと

ころでした。このような状況になっているところをただ見ている訳にはいけない。どんな子どもたちを育てていくのか、これも委員さんからお話しがあったように、ここをきっちり我々は押さえておく必要があり、今後の一番適正な教育の環境をどのように作ってやるのかということは我々大人の責任だと思っております。最近、コミュニティースクールをマスコミなどでお聞きになっていると思いますが、これは、地域の子どもは地域で育てようということで、学校運営に今はPTAも含め学校評議員さんも入っていただいておりますが、もっと広い範囲の地域の方も一緒に入っていただき、学校を運営していこうというものです。双葉小学校の特認校制度も複式学級を、今、東播磨で一番小さい双葉小学校でやってもなかなか難しいということが見えてきています。この学校をこのまま維持出来るのかどうかという心配もありまして、このデータを見ていただいたとおり、ゼロ人となる想定もしております。このような課題の延長線上に学校学習環境規模の問題が出てきたということでもあります。ですから、具体的には今後出てくると思いますが、計画が出来たからといって今すぐ統廃合出来る問題ではありません。何年以内にするかということも大きな話題になってくると思いますが、そこに地域の方やいろんなお立場の方からたくさんの議論が出てくると思いますが、それぞれの意見を詰めていって新しい校区を作るならそれも検討に入れながら順次数年かけて進めていかなければなりません。私は市長といろいろ話しはするのですが、西脇がスマートにならないとなかなか生き延びていけないと思っております。西脇の子どもたちが活躍し、多くの方に西脇市に住めばしっかりと子どもたちを育ててもらえると言われる教育が提供出来るような環境づくりを今突きつけられていると思っております。今年度からいろんな計画を具体的に進めさせていただいておりますが、スピード感と、今、どんな課題があってどういうふうに進めていかないといけないのか、ハードの問題だけではなくソフトの教育の問題も含めて進めていかないといけないと思っております。国は待ってくれませし、たちまち小学校5年生6年生は現在の中学校と同じ時間数まで引き上げられました。そうなる子どもたちの負担はさらに大きくなるでしょう。そういうときにうろたえないように準備をする必要があると思っております。私の考えは、学校学習環境規模適正化については前に進めるべきだと思っておりますので、総合教育会議におきましては市長と手を携えて大筋を作るといことでがんばらなければいけないと思っております。

○事務局

この学校学習環境規模の関係につきましては、随時、ご報告、進捗状

況を説明させていただきたいと思っております。

◎市長

次に、協議・調整事項(2)の「通学路の安全確保に係る対応について」を事務局から説明させていただきます。

担当課長から説明をお願いします。

————— [説 明…記述省略] —————

◎市長

説明が終わりました。これは、点検が終わった後、委員さんへのご報告はしていただけるのでしょうか。

○事務局

合同点検を終えて先程の年間スケジュールで言いますと、年を明けまして2月から3月に第2回目の連絡会議をする予定です。この辺りで対策状況公表の検討ということを書いています。今進めている状況で、一旦、年度内の途中経過も含めて状況は報告出来ると思います。

◎市長

委員さんへの状況報告をお願いいたします。

それでは、ご質問がないようですので、「通学路の安全確保に係る対応について」を終わります。

◎市長

次に、次第3、「その他」ということで、せっかくの機会ですので、何か意見交換等を行いたいと思いますが、もし、よろしければ私の方から1つ提案をさせていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

昨日、7月22日に「西脇市青少年問題協議会」が開催されました。会議は、今年度第1回目ですので、年間を通じた取組計画を協議していただきました。事務局からの説明の後、少し意見交換をさせていただいたのですが、よろしいでしょうか。

————— [説 明…記述省略] —————

◎市長

岩本委員と内橋委員は青少年問題協議会にご出席いただいておりますのでこの議論にご参加いただいています。藤原委員と依藤委員から、今事務局から説明させていただきました、「子どものSOSを受け止めるカード」について、何かご意見等ございませんでしょうか。

○委員

こういうものを作っていただくほうが、なんかあったときに聞いてもらおう、というきっかけになりやすいのではないかなと思います。本当に悩んでいる子にとっては、救いの手になったらいいと思います。これ

は、首にかけるとのでしょうか。

○事務局

そうです。また、これを拡大していろんな施設や学校内に掲示しても使えるかなと考えております。

○委員

すごくいいことだと思いますが、実際にこれを提示して言われたときにどう対応するかとか、その家庭には事情があってどこまで踏み込んでいけるかとか、福祉関係等にネットワークを広げていくのですが、一市民としてこれを聞き取るというのであればすごく負担が大きいと思うのです。まず、子どもたちが学校の先生や青少年センターに相談しやすい環境づくり等が必要だと思います。第一段階これはすごくいいことだと思いますが、このようなことがあったらこうするというような次のステップを検討することが大事だと思います。

◎市長

ありがとうございます。「これは、机の上に置くなど家庭内でも使えるよね。」という保護者のご意見もお聞きしました。このように、今年度は、青少年問題協議会では、早期発見早期対応ということで取組をさせていただいております。教育委員会でも議論していただけたらと思っております。

◎市長

その他、ご意見がないようですので意見交換を終わります。

それでは、事務局から連絡事項をお願いいたします。

○事務局

次回の総合教育会議の開催につきましては、協議事項等との関係もございますので秋頃を考えております。事前に事務局から調整をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

◎市長

それでは、これをもちまして、令和元年度第1回総合教育会議を閉会いたします。お疲れ様でした。

————— 閉 会 —————